

| ブレーキ ブレーキフルード(VSCなし) エア抜き

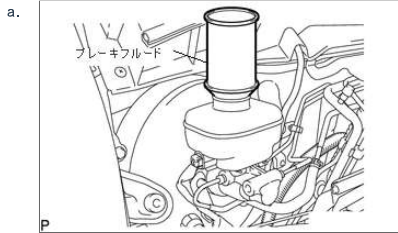
## 手順

## ■ 1. 取り扱い・作業上の注意

## 注意：

- 塗装面にブレーキフルードを付着させない。付着した場合は直ちに洗い落とす。
- ブレーキシステムの脱着作業を行った場合、またはブレーキライン内にエア混入の疑いがある場合は、ブレーキシステムのエア抜きを行う。

## ■ 2. ブレーキフルード補充

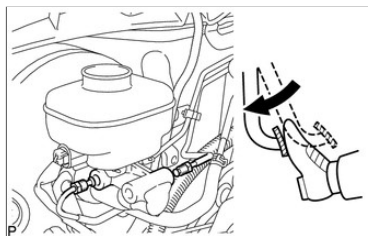


ブレーキフルードの缶をリザーバの上に逆さにして立てる。

## 注意：

- 缶の中に十分な量のブレーキフルードが入っていることを確認する。
- 補充の際、マスターシリンダASSY上部のリザーバが十分に満たされたことを確認した後に作業を行う。

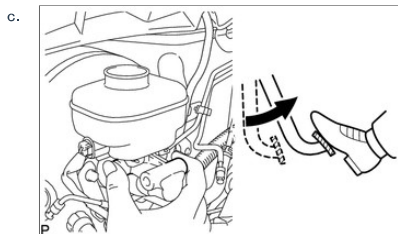
## ■ 3. ブレーキマスタシリンダASSYエア抜き



## 参考：

マスタシリンダの脱着を行った場合、またはリザーバが空になった場合、マスタシリンダのエア抜きを行う。

- ユニオンナットレンチ(10mm)を使用して、ブレーキチューブ2本をマスタシリンダから切り離す。
- ゆっくりとブレーキペダルを踏み込み、その状態を保持する。



指でチューブ穴をふさぎ、ブレーキペダルを素早く放す。

- 指を放してゆっくりとブレーキペダルを踏み込んで保持し、再びチューブ穴をふさいでブレーキペダルを放し、これを3、4回繰り返す。
- ユニオンナットレンチ(10mm)を使用して、ブレーキチューブ2本をマスタシリンダに接続する。  
基準値：  
 $T=15\text{N}\cdot\text{m}(155\text{kgf}\cdot\text{cm})$ (規定締め付けトルク)  
 $T'=14\text{N}\cdot\text{m}(143\text{kgf}\cdot\text{cm})$ (ユニオンナットレンチおよびトルクレンチ230F使用時の読み)

## ■ 4. ブレーキ系統エア抜き

- ビニールチューブをブリーダプラグに接続する。
- ブレーキペダルを数回踏み込んで、ブレーキペダルを踏んだままブリーダプラグをゆるめる。
- ブレーキフルードが出てこなくなった時点で、ブリーダプラグを締め付け、ブレーキペダルを放す。
- ブレーキフルードの中のエア混入がなくなるまで繰り返す。  
基準値：  
 $T=10.8\text{N}\cdot\text{m}(110\text{kgf}\cdot\text{cm})$ (フロントブリーダプラグ)  
 $T=11.0\text{N}\cdot\text{m}(112\text{kgf}\cdot\text{cm})$ (リヤブリーダプラグ)
- 同様にして、各ホイールのブレーキラインからエアを抜く。

## ■ 5. ブレーキフルード量点検

- ブレーキフルードの量を確認し、必要であればリザーバのMAXの位置まで補充する。